シンポジウム
「越境するナラティブ――他／多言語による文学は何を紡ぐか――」

ナラティブ（語り）が言語や国境を越えるとき、何を失い、何を受け継ぎ、何を生み直すのか――。
文学作品に探る。

開催日：2026年2月14日（土）
13:00–17:00

会場：富山大学五福キャンパス
人文学部棟３階 第6講義室

問い合わせ先：富山大学人文学部 秋田研究室
akita@hmt.u-toyama.ac.jp

登壇者・タイトル

1. **西成彦**（立命館大学名誉教授：ポーランド文学、比較文学）
「旅するひと、旅する言葉」

2. **秋田万里子**（富山大学：ユダヤ系アメリカ文学）
「消えゆくものに息を吹き込む――『ヒストリー・オブ・ラブ』における翻訳と継承」

3. **中里まき子**（岩手大学：現代フランス文学）
「シュヴァルツ=バルトの小説が伝えるユダヤ人の記憶と黒人の記憶」

4. **福島亮**（富山大学：フランス語圏文学・思想）
「環大西洋アフリカ人強制移送（DTS）」の記憶――アフロトロープを手がかりに」

5. **水野真理子**（富山大学：日系アメリカ文学）
「日系アメリカ文学史の再考－こぼれ落ちた文学活動を問い直す」

6. **日比嘉高**（名古屋大学：日本近現代文学・出版文化史）
「越境する文学は何に支えられていたのか――帝国日本の出版文化から考える」